

〔研究論文〕

学習者の口頭運用能力をとらえる複合的CAF指標の検討

— 流暢性に焦点をあてて —

宮本真有（名古屋外国語大学）

要 旨

本研究は、日本語学習者の口頭運用能力の採点を（半）自動化するための基盤となるアルゴリズムの構築をめざし、「複雑性」「正確性」「流暢性」（CAF）を示す指標を用いて、口頭運用能力を予測することのできる複合的指標を検討した。分析には、全米外国語教育協会のOral Proficiency Interview（OPI）という口頭運用能力テストによって産出された発話データのうち、170の音声を使用した。まずはCAFを示す18の指標と口頭運用能力レベル（OPIの判定）との相関を調べた。その結果、「発話スピード」と「複雑性」に関する指標に口頭運用能力との強い相関関係が見られた。次に重回帰分析を行い、一番効率的に学習者の口頭運用能力を予測することができるモデルを検証した。その結果、5つの指標の組み合わせ（effective articulation rate/ silent pause ratio/ repeat ratio/ syntactic complexity/ error-free AS unit ratio）によって、日本語学習者の口頭運用能力（OPIの判定）を72.3%予測できることが明らかになった。

【キーワード】 口頭運用能力 アセスメント 自動採点 流暢性 CAF